

## 第21回軽金属学会功労賞

軽金属学会功労賞は、永年にわたり軽金属学の発展ならびに当会の活動に顕著な貢献をした者に贈る。



相浦 直 君

(一般社団法人軽金属  
溶接協会 専務理事)

相浦 直 君は、1984年に株式会社神戸製鋼所に入社し、アルミニウム押出材料の研究に携わり、重切削から超精密切削加工まで機械加工についての材料研究を進めた。自動化のため快切削合金の開発や切りくずの処理のためのチップブレーカーの設計についての研究から、鏡面切削用途でのダイヤモンド切削表面の介在物きずのメカニズムの解明などを行い、その成果は講演大会、研究論文等で公開されている。2000年以降は、自動車のアルミ化の研究を行い、その成果はICAA12（横浜）において基調講演として報告している。さらに、2010年以降は、研究部会のテーマ検討やロードマップの作成に参画し、アルミニウム合金の発展のため学術的かつ工業的にも大きく貢献している。

軽金属学会においては、2009年に理事、2013～2015年副会長に就任し、学会の運営および人材育成に取り組み、研究部会の見直しなどを進めた。国際交流委員会では、各国と交渉を重ね、ALMAを立ち上げた。さらに、国際委員としてICAAに参加し、2022年の国際講演大会を日本に誘致するための活動を積極的に進め、学会の国際化にも尽力した。また、中堅企業会員の拡大に向けた取り組みを進め軽金属学会運営基盤づくりに大きく貢献した。

以上のように同君の軽金属に関する功労は極めて顕著であり、ここに軽金属学会功労賞を授与する。



田中 宏樹 君

(国立研究開発法人  
産業技術総合研究所  
現 株式会社UACJ  
R&Dセンター 主幹)

田中 宏樹 君は、1986年に住友軽金属工業株式会社（現 株式会社UACJ）に入社し、長年にわたりアルミニウム板材製造技術開発に従事してきた。その成果として超塑性材、飲料用缶材、リチウムイオン電池ケース材および集電体用箔材や船舶用厚板材などの特性改善に努め、多くの製品開発を行うことでアルミニウムの市場拡大に貢献してきた。また、金属系材料研究開発センター（JRMC）主導のアルミニウム系スーパーメタルや高成形性自動車用板材材料開発プロジェクトに参画して、高温加工中の析出が下部組織形成に影響する点に着目しAl-Mn系合金等の再結晶挙動を明らかにした。さらに、熱的安定なサブグレイン組織が維持されると小角粒界でのPFZ（無析出帯）が形成されにくく耐応力腐食割れ性が向上することをAl-Zn-Mg系合金で示した。これらの開発で得られた成果は、特許や学術論文などで公開し、本分野の発展に大きく寄与している。

一方、軽金属学会の東海支部では2009年度から4年間、幹事を務め、2013年度からは支部評議員および支部運営委員を務めることで、本学会支部活動の運営に大きく貢献している。さらに編集委員会編集幹事、国際交流委員、春期大会実行委員会委員を務め、冷間/熱間加工工程における組織形成予測部会の幹事として部会運営にも参画するとともに、2017年度からICAA International Committeeの活動として2022年に開催されるICAA18の富山誘致に尽力した。2018年6月から現職に出向後も、軽金属学会の活動を継続している。

以上のように、同君の軽金属に関する功労は極めて顕著であり、ここに軽金属学会功労賞を授与する。



照田 伸二 君

(喜多方軽金属  
株式会社)

照田 伸二 君は、1982年に昭和電工株式会社に入社し、横浜工場においてアルミニウムの製造に関連する技術開発を行い、1987年にスカイアルミニウム株式会社に出向後は、アルミニウム缶材・箔地の開発および、それらの集合組織・強化機構や再結晶組織の形成過程に関する研究を行った。その成果により1991年には軽金属論文賞を受賞している。1992年には昭和電工株式会社に復帰し、ショウテック・昭和電工株式会社喜多方事業所に配属となり、アルミニウム鍛造品およびその素材である連続铸造棒や溶製材・粉末材の押出の開発とそれらの生産の部署を経て、2013年からは喜多方事業所所長として、事業所の管理・経営を指揮した。現在もアルミ機能材事業部の勤務を経て、アルミニウム铸件を製造する喜多方軽金属株式会社に出向し、長年にわたり、アルミニウムの上工程から下工程までの開発・技術・生産に携わり、アルミニウムの発展に大きく貢献している。

軽金属学会では、2001年に軽金属学会の急冷凝固部会に参画し、2003年度から2010年度までの4期8年間本部評議員を、同じく2003年度から2016年度までの7期14年間 東北支部役員を務めた。ほぼ大学関係者で構成される軽金属学会東北支部において唯一の産側委員として、長年、産学のバランスの取れた提案をし、運営に大きく貢献した。

以上のように、同君の軽金属に関する功労は極めて顕著であり、ここに軽金属学会功労賞を授与する。